

# しらかば

第94号

令和7年  
(2025年)  
2月



北海道対がん協会ホームページ

公益財団法人 北海道対がん協会

北海道札幌市東区北26条東14丁目1-15 Tel (011) 748-5511 Fax (011) 748-5512 <https://www.hokkaido-taigan.jp/>

## 旭川がん検診センター 所長 就任のご挨拶

北海道対がん協会  
旭川がん検診センター所長

西村 英夫



令和6年6月1日付で旭川がん検診センター所長に就任しました、西村英夫です。引き続き、北海道対がん協会のがん検診、一般健診事業にご理解、ご支援、参加いただければ幸いです。

私は、青森県出身で18歳の時に北海道にきました。札幌の大学で理学部にて学びましたが、理学部は純粋科学の場であり、自分には応用科学があっているなど考え、旭川医大に入り直し昭和58年に卒業しました。卒業後は旭川医大の第二内科に入り、医者人生を始めました。当時旭川医大は私が5期生であり、研修病院などもなく、教授の弟さんのいる釧路の市立病院へ預けられました。そこで5年を過ごすのですが、札幌医大の第一内科の先生と、楽しく厳しい5年間を過ごしました。内科ですが、主に消化器・内分泌・血液・呼吸器を診ていました。札幌医大の第一内科のやり方で臨床医になったようなものです。当時の釧路は医者が少なく、しかしながら町全体が200海里以前であり、炭鉱、パルプともに盛業で、活気がありました。

とにかく、釧路ではたくさんの疾患を診ました。当時、循環器は内科によりやくエコーが入った状態で、昔ながらの循環器診療で、途中からカテーテル診療が導入されたのが驚きでした。消化器は、もっぱら胃カメラ、大腸カメラを行いました。最初に、胃バリウム、注腸バリウムの結果、異常時にカメラを行う状態でした。それから、だんだんと最初から胃カメラ、大腸カメラを行うようになりました。当初はカメラがファイバースコープでしたので、小さな画面を覗くような状態でした。昭和60年ころから、今のビデオスコープが入ってきて、検査は飛躍的に楽になりました。当時は進行した胃がんで見つかる人もかなりいましたが、今は検診で早期の胃がんで見つかる人が増えています。また、胃がんはピロリ菌の感染が大きな原因であるとわかってきており、ピロリ菌の感染があれば除菌が有効です。除菌すれば胃がんの発生率

は劇的に下がります。当センターでも除菌療法をしていますが、今後検査を改良して、より効果的な除菌を行うように予定しています。大腸がんは便潜血2日法の検査で陽性ならば、大腸カメラです。注腸バリウムを行うことはほとんどなくなりました。検査は昔に比べると、機器の進歩、技術の進歩もあり、確実に楽になっています。胃カメラ、大腸カメラはがん発見の近道です。

その後、30年間は旭川の国立病院（現 独立行政法人国立病院機構旭川医療センター）消化器科で患者さんを診てきました。胃がん、大腸がん、肝がん、膵がんの患者さんが多くいらっしゃいました。肝がん、膵がんはここ数年間の治療の進歩は目覚ましいものがあり、できるだけ早期に治療すれば、選択肢も広がります。開腹などしなくても、治療を完遂できるようになりました。

肺がんは、今もって大きな課題ですが、昔は手術できなければ、見守るということしかできませんでした。しかし今は、抗がん剤、免疫チェックポイントの薬がよく効きます。もちろん、早期発見の状態で手術により取り切れるのが理想ですが、ここ数年の上記の薬に加え副作用軽減の薬も多数出てきており、昔のように抗がん剤は苦しくて大変という一般的な考えからは抜け出してきています。

さて、最後に乳がん、子宮がんですが、私は個人的にはほとんど診ていませんが、時折、検診で進行した乳がんの方などを診て、なぜにここまで、と思ったこともあります。

当協会に入職してから、道東の各地を検診で回りました。まだまだ医療資源の少ない地域が多く、その中で、当センターの検診も地域のみなさまに役に立っていると、感じました。

がんは、症状がないか、あっても少ないうちに見つかれば、その後の治療につながり、天寿を全うできます。それは、胃、大腸、肺、乳房、子宮すべてにいえることです。がん検診は健康診断とともに、少し、気が重いこともあるでしょう。しかし、検診のレベルで異常があれば、一番早期に見つかったことにもなります。これから、最近急激に増えている膵がんなども早期発見の道筋が見えてくるものと思われます。診断の方法も年々進歩しています。皆さまの北海道対がん協会の検診と健康診断への理解と参加を願うものであります。



第54回がん予防道民大会を令和6年10月25日(金)伊達市だて歴史の杜カルチャーセンターにおいて、開催しました。

毎年9月10月を「がん征圧月間」と定め、がんに関する正しい知識やがん検診の重要性などを訴える集中的な期間です。その中心事業として「がん予防道民大会」を毎年開催しております。

本大会は会場参加とオンライン参加のハイブリッド形式で開催し、会場参加者は道立伊達開来高校、市立伊達中学校、市立光陵中学校の生徒及び地元伊達市民をはじめ一般参加者を合わせて約830名、オンラインでは約70名、合計約900名の参加を得て盛況のうちに終わることが出来ました。

がん予防功労者表彰は、がんに対する正しい知識の普及啓発やがん検診の受診促進に功績のあった、江差町、初山別村、ボランティア団体タオル帽子支援・ひだまりの杜に対して北海道対がん協会が表彰いたしました。また、優良がん対策推進企業表彰は、北海道のがん対策の推進を支援し、その功績が顕著な企業として第一三共(株)北海道医薬営業部、伊藤組土建株式会社が北海道から表彰を受けました。

特別講演は、公益財団法人北海道対がん協会 会長 加藤 元嗣 氏から「がんの予防について」～1次予防と2次予防～と題して、がんの予防とがん検診の重要性についてのわかりやすいお話をされました。健康講話は声優・タレントの矢方 美紀 氏 から「乳がんになっても前を向いて」と題し、自身の体験や思いを語られました。

来年度のがん予防道民大会は、令和7年10月23日(木)千歳市北ガス文化ホールで開催の予定です。



特別講演  
公益財団法人 北海道対がん協会  
会長 加藤 元嗣 氏



健康講話  
タレント・声優  
矢方 美紀 氏

日 時：令和6年10月25日(金) 13：00～16：00

主 催：北海道・伊達市・(公財)北海道健康づくり財団・(公財)北海道対がん協会

表 彰：がん 予 防 功 労 者 表 彰 江差町・初山別村・ボランティア団体タオル帽子支援ひだまりの杜  
優良がん対策推進企業表彰 第一三共(株)北海道医薬営業部・伊藤組土建(株)

特別講演：演題 「がんの予防について」～1次予防と2次予防～

演者 公益財団法人北海道対がん協会 会長 加 藤 元 嗣 氏

健康講話：演題 「乳がんになっても前を向いて」

演者 タレント・声優 矢 方 美 紀 氏

# 令和6年度 がん及び生活習慣病対策推進会議を開催しました

がん及び生活習慣病対策推進会議は、次年度の検（健）診事業を円滑に推進するため、北海道と共催で、市町村・道立保健所・事業所の関係職員を対象に開催しています。

今年度はコロナ禍前の開催と同規模となる、札幌・帯広・釧路・旭川の4会場で実施し、67団体94名の皆様にご出席をいただきました。

北海道保健福祉部からは、北海道で特に多い喫煙率を例にたばこ対策や生活習慣、感染症等対策などのがんの1次予防や、依然全国平均との比較で受診率の低いがん検診（2次予防）の必要性について伝えられました。

がん対策としては啓発活動の直近の取組例として、企業と連携した「がんを知る展」の開催、がん対策基金の活用や連携協定企業との共同で製作し公開したがん検診啓発動画の紹介が行われました。

続いて、下記のとおり各地で講演を開催しました。札幌会場では、札幌がん検診センター津田内科部長より、大腸がん、便秘について最新の情報や症例などを交え便秘外来の紹介をいただきました。帯広・釧路会場では、旭川がん検診センター野村副所長より、胃・大腸がんについて2次予防だけでなく1次予防も積極的にい行いがん発生を抑制していきましょうとお話を、旭川会場では、旭川がん検診センター西村所長より、センターでの症例を挙げて、糖尿病患者に合併する肝疾患や悪性疾患についてのお話をいただきました。

当協会からは、令和7年度に予定している検（健）診料金の見直しについての説明や検（健）診実施計画について報告しました。

## 【報告事項】

### 1 北海道からの報告

- ・北海道におけるがんと生活習慣病の状況について

### 2 北海道対がん協会からの報告

- ・令和7年度検（健）診料金の見直しについて
- ・令和7年度検（健）診の実施計画について
- ・北海道対がん協会の取組みについて

## 令和6年9月17日(火)

13:00～16:30

ホテルポールスター札幌  
4階「ラベンダー」

## 【講演】

「大腸がん検診と便秘外来について」

(公財)北海道対がん協会 札幌がん検診センター  
内科部長 津 田 桃 子

## 令和6年9月26日(木)

13:00～16:30

帯広市保健福祉センター

## 【講演】

「胃・大腸がん検診の現状と課題」

(公財)北海道対がん協会 旭川がん検診センター  
副所長 野 村 好 紀

## 令和6年9月27日(金)

13:00～16:30

釧路がん検診センター

## 【講演】

「がんの予防と治療について」

(公財)北海道対がん協会 旭川がん検診センター  
所長 西 村 英 夫



# 第56回 北海道家族の健康をまもる講習会



令和6年7月5日(金)、札幌エルプラザ3階ホールにおいて、第56回北海道家族の健康をまもる講習会を開催いたしました。

この講習会は「健やかでいきいきとした生活を送るために」をテーマに、健康に関する正しい知識をより一層深くするとともに各地域の親睦交流を図り、もって家族の健康をまもる地域活動を円滑にすることを目的として、北海道健康をまもる地域団体連合会、北海道食生活改善推進員協議会、(公財)北海道結核予防会、(公財)北海道対がん協会の四者共催で年1回開催しております。

今年度は公益財団法人結核予防会理事長 尾身 茂 氏が「新型コロナウイルス感染症 これまでとこれからー感染症と私たちの身近な暮らしについてー」と題し、感染症、新型コロナウイルスについてわかりやすく話されました。

今大会は全道各地から約220名が参加し盛況のうちに終了しました。

令和7年度は、札幌エルプラザで、7月11日(金)に開催の予定です。

# 北海道がん対策基金 設立10周年記念フォーラム

## 「がんに負けない社会の実現を目指して」

### ～北海道のがん対策 これまでの10年とこれから～

北海道がん対策基金が令和7年2月に設立から10周年を迎えることを契機に、改めて道民の皆様並びに道内企業に北海道がん対策基金について一層の普及啓発を図るとともに、「がんに負けない社会」の実現に向けた取組を進めることを目的に、令和6年12月17日(火)13時～16時30分に、かでるアスビックホールにてフォーラムを開催しました。

記念講演は、東京大学大学院医学系研究科 総合放射線腫瘍学講座 特任教授 中川 恵一氏から、「大人も子どももがんを知る」と題し、がんの現在や予防等、わかりやすく、がんを知ることの大切さをお話いただきました。

パネルディスカッションは、北海道テレビ株式会社東京支社編成業務部長 阿久津 友紀氏、北海道がん患者連絡会 副代表世話人 柴田 直美氏、第一生命保険株式会社生涯設計教育部 フェロー 真鍋 徹氏、北海道保健福祉部健康安全局長 竹内 正人氏、公益財団法人北海道対がん協会 会長 加藤 元嗣氏をパネリストに迎え、今後、北海道のがん対策を推進するために何が必要なのか、各分野の視点からディスカッションいただきました。

当日は、一般の道民の方を中心に、497名の参加を得て、盛況のうちに終えることができました。



記念講演

東京大学大学院 特任教授 中川 恵一 氏



パネルディスカッション



会場の様子

## ❖ アフラックアソシエイツ会北海道ブロック様から寄付金をいただきました ❖

令和6年11月7日(木)に、アフラックアソシエイツ会北海道ブロック様から、北海道がん対策基金へご寄付 (123,000円) をいただき、北海道対がん協会でご寄付金贈呈式を行いました。

いただきました寄付金については、がん患者やその家族の方々への支援、がん検診の受診率向上や、がん教育などの事業に活用されます。

北海道はもとより、当協会としてもがん征圧に向けた取り組みを行ってまいりますので、引き続き、北海道がん対策基金へのご理解とご協力をお願いいたします。



アフラックアソシエイツ会 北海道対がん協会 北海道保健福祉部 北海道対がん協会  
道央地区会 北海道ブロック 加藤会長 角井がん対策等担当課長 白川専務理事 煙島事務局長  
武下事務局長 加藤事務局長 奥山代表

### 北海道がん対策基金とは？

#### 「がんに負けない社会の実現を目指して」

すべての道民が一体となり、がん患者やその家族を社会全体で支える仕組みとして、平成27年2月、北海道が中心となり、道内企業、団体、道民の皆様からの寄付・募金を財源として設立いたしました。

★北海道がん対策基金ホームページ★

<https://hokkaido-taigan.jp/donate/>





## 「コカ・コーラ工場見学



## 乳がん検診バスツアー」を開催しました！



当協会は、2010年に、北海道コカ・コーラボトリング株式会社（以下、北海道コカ・コーラ株と記載）と「ピンクリボン運動の推進に関する協定」を締結し、「ピンクリボン活動支援自動販売機」設置先様のご協力のもと、売上金の一部を北海道対がん協会へ寄付していただく仕組みを作っています。協定の締結から13年が経ち、支援自販機は全道に約150台、2023年までの累計寄付金額は、24,629,269円となりました。

この寄付金を活用した事業として、「コカ・コーラ工場見学×無料乳がん検診バスツアー」を実施し、毎年好評を得ています。コロナ禍の2020年から2022年までは実施できませんでしたが、昨年から再開し、今年も定員を超えるご応募をいただきました。

当日は、午前中に北海道コカ・コーラ株の工場見学と乳がんのミニ講話、昼食後に北海道対がん協会札幌がん検診センターで乳がん検診を受けていただきました。アンケートから、「工場見学がセットだったので、気軽な気持ちで参加できた」「北海道コカ・コーラのことも乳がんのことも学べてとても良い機会になった」等のお声をいただき、検診の重要性を理解いただける企画になったのではないかと考えています。今後もいただいた寄付金を有効に活用できる企画を検討していきます。



## がん予防パネル展を開催しました

がんの正しい知識や予防に係る普及啓発やがん検診の受診率向上を図るため、北海道と（公財）北海道対がん協会の共催で、毎年9月と10月の「北海道がん征圧・がん検診受診促進月間」に合わせ、がん予防パネル展を開催しています。

令和6年度は、9月4日（水）と5日（木）の2日間、北海道庁本庁舎1階ロビーで開催し、第一生命保険株式会社様の協力を得て、乳がん触診体験などのブースも設置、延べ184名の方にご来場いただきました。



## 子宮がん検診車【しらゆり10号】を新たに配備しました。

北海道対がん協会では、婦人科検診の充実を図るため、令和6年1月31日 新たに子宮がん検診車「しらゆり10号」を札幌がん検診センターに配備し、2月から稼働しております。

このたびの子宮がん検診車は、“快適な空間で検診を提供する”をテーマに、女性のプライバシー、安心・安全配慮を基本とした検診車となりました。

外装デザインも従来の検診車のイメージから変更し、女性スタッフが中心となって可愛いデザインを施し、車内の待合室から検査室に至るまで、女性に優しいデザインで仕上げており、北海道から全国へ自慢のできる検診車となっております。

北海道対がん協会は、これからも時代のニーズに沿って、受診者の皆様が安心して受診していただける環境を提供できるよう、努めてまいります。



当協会の婦人科検診は道内138市町村を、しらゆり10号を含めた3台の子宮がん検診車で巡回し検診を行っています。

## 第一生命保険株式会社様から、ご寄付をいただきました！

第一生命保険株式会社様には日頃から、当協会が実施する、がんやがん検診に関する普及啓発活動等にご協力をいただいております。当協会の主要行事であるがん予防道民大会では、スキルアップのために職員の皆様に参加いただいている他、地元の顧客の皆様にも周知いただき、毎年多数参加いただいております。

この度、令和6年10月10日(木)に札幌コンベンションセンターで開催された「第一生命サミット」において、札幌総合支社様から地域貢献団体としてご推薦いただき、加藤会長が参加させていただきました。また、サミット席上で、隅野代表取締役社長から当協会の加藤会長に50万円の寄付をいただき、加藤会長から参加職員の皆様に、がん検診の重要性等について改めてスピーチを行いました。

いただいた寄付金は、当協会のがんやがん検診に関する普及啓発活動や検診事業、調査・研究事業に活用させていただきます。



左：第一生命保険株式会社 隅野代表取締役社長  
右：(公財)北海道対がん協会 加藤会長